

# 博士学位論文審査要旨

2015年7月7日

論文題目: Observation of Democratic Decentralization in Indonesia during 2009-2014: Political Dynasty in Banten Province and Populism in Jakarta Province

2009年から2014年におけるインドネシアの民主的地方分権に関する考察: バンテン州における政治ダイナスティとジャカルタ特別州におけるポピュリズムの台頭

学位申請者: Abdul HAMID

審査委員:

主査: グローバル・スタディーズ研究科 教授 小山田 英治

副査: グローバル・スタディーズ研究科 教授 Anne GONON

副査: グローバル・スタディーズ研究科 准教授 今井 ナタニエルアゴラ

要 旨:

インドネシアでは、32年間続いたスハルト権威主義体制が1998年に崩壊して以来、行政・政治の分権的民主主義体制の構築努力を行うなど、積極的な民主化政策を実施している。政治面においては、2004年の地方行政法により、州、県・市長は中央政府による任命から直接公選へと移行した。その結果、各地でポピュリズム的政治家と政治家一族による政治ダイナスティが同時期に誕生した。

本論文は、インドネシアの民主化・地方分権化の制度と実態との乖離に着目し、民主化政策はどのような形で地方政治変容を起こし、何が分権的民主主義体制を構築する際の要件なのか、急激に民主化が進むインドネシアにおける地方の政治及び社会の今日的意義を論じている。論文はバンテン州とジャカルタ特別州を事例にし、研究調査対象時期は2009～2014年と限定している。そこでは、民主的分権化の過程で政治ダイナスティとポピュリズム的政治家がどのような政治社会基盤でどう形成され、地方ガバナンスに影響を与えてきたか、政治社会学的側面より検証している。

論文は全6章から構成され、第1章では、本論文の主旨、インドネシアの民主化の歴史的背景と意義、そしてその一部である地方分権が地方政治、地方政府に与える諸影響について概観している。第2章では、インドネシアや途上国の民主化政策の現状、そして地方分権と地方政治に関する先行研究についてまとめている。これまでインドネシアの政治研究では、民主化後も少数の財界のエリートによる支配が続いているという寡頭制支配オリガーキー論や、国民により選出された新たな政治家もエリート間の連合（カルテル）に吸収されてしまうカルテル政治論が有力であった。しかし、分権化と直接選挙は、宗教や貴族階級に基づく伝統的な権威をむしろ強化し、また財界等との癒着で巧みに支配を継続させている事例が地方全域に見受けられるようになった。一方、有権者より直接選ばれたという大義名分と正当性を理由に、様々な改革や政策を打ち出す政治家、そして大衆的な人気により改革を推し進める県知事や市長を各地に誕生させた。その中において本論文では、Richard Crook と James Manor の提唱する民主的地方分権の構成要素（政党制度の競争性、公務員の専門性、メディア活動の自由度、堅固な司法制度と市民参加により形成される説明責任ある文化の有無等）を取り上げ、地方分権の有効性についてインドネシアを分析している。

3章では、バンテン州のハサン・ソヒブ（Hasan Sochib）が作りあげたソヒブ政治家一族を事例に取り上げ、民主的地方分権が及ぼした新たな政治勢力の構図を説明している。元々ジャワ

ラ（Jawara - 無法者）グループの長であったソヒブは、権力とジャワラを介した暴力を通じて地方官僚を統制し、住民に対しては体系的な買票工作やばらまき政治を行い、更には地方メディアの活動を抑制しそして操り、州内における影の政治リーダーとして君臨してきた。ソヒブは、後に政治家として、州知事には娘、州都セラン市の副市長には息子、セラン県の副知事には娘を就任させ、加えて2010年には南タンゲラン市長に息子の妻、2011年にはバンテグラン県の副知事に自分の妻を当選させ、バンテン州、および州内の7県・市のうち、5つの自治体に一族を送り込んだ。一族の中には、国会・州・県・市議会議員に納まっている者もあり、配下の者も一族関連企業等の要職に据えていく等、圧倒的な政治的影響力をもつに至った。その後、一族とその取り巻きが自治体を私物化するといった、略奪政治を行った。一族に反抗する市民社会やメディア等に対してはジャワラを通じ暴力的手段で抑圧し、徹底的な権威主義体制を築いた。他方、政治手法としては多くの場合、ライバルと敵対関係を継続するよりも、敵対勢力と妥協し、彼らを取り込むことを戦略手段とした。そして、州内の権力を掌握すると、その維持は次第に暴力的手段からカネを通じたものになっていった。このように地方によっては自由な選挙が暴力、権力の集中に伴うメディアや市民社会活動の統制、そしてマネーポリティックスを誘発し、政治ダイナスティの確立を可能とするという、民主化理論が想定しない展開に転じている事実を明らかにした。

第4章は、ジャカルタ特別州の政治社会構造を説明し、その中における新たなスタイルの政治家（ポピュリズム的政治家）の誕生について記述している。同州は多くの異なった民族が同居し、他地域に比べ教育レベルやメディアの独立性そして公務員の質も高く、貧困人口率は少ない。また複数政党制が可能となっている州でもある。このような土壌においてジョコウィ（Joko Widodo=Jokowi）が2012年に州知事選で当選した。ジョコウィは、庶民の出身で、大きな組織や政党に属してこなかった、インドネシアでは新しいタイプの政治家である。政治や社会改革の必要性を市民に分かり易く説明し、大衆の味方というイメージを強化しつつ、有権者の支持を獲得してきた。謙虚で親しみやすい性格がより身近に感じられる「等身大」の指導者として選ばれた訳である。当選後は、透明性を伴った行政改革や社会サービス向上、そして汚職撲滅を掲げて州の取り組みを斬新な発想と実行力で示し、実力と共に評価されるに至った。ここでは、ジョコウィの政治スタイルを詳細に分析し、首長として選出された背景には、その大衆的人気に加え、他の州とは異なった地域の有する社会・文化的基盤があることを考察した。そこでは主にソーシャルメディア等を通じて、市民を政治問題や活動に興味を抱かせ、社会活動の一部として参画させることに成功した。即ちメディア戦略や世論操作を上手に使いこなし、支持層を拡大したことが重要な要因であることを分析している。

この2つの隣接した州における異なった政治社会構造は、異なった種類の地方リーダーを生み出す結果になっていることを5章で検証し、6章で結論づけている。そこでは、バンテン州は民主的地方分権化を推進できる要件を満たすには時期尚早の土壌にあり、それが故に政治ダイナスティの台頭を可能とした。一方、ジャカルタ特別州は、新たなポピュリズム政治家が誕生できた背景には諸要件を満たしていたことが大きな要因である。その様な中、2014年、ソヒブ一族の汚職事件が発覚し、政府は親族の選挙への出馬を制限する法律を制定、同一族そして家産制支配構造に大きな打撃を与えた。他方、かつては地方の一市長であったジョコウィは、ジャカルタ特別州知事、更には後にインドネシア大統領まで駆け上がり、彼のサクセスストーリーは、多くのポピュリズム的政治家を各地で誕生させ、地方リーダーが国家レベルのリーダーになれるという見本を提供した。一方で彼らが国家リーダーになる場合の政治的資質や能力的問題は別の 이슈としてとらえ、今後の議論として浮上すべきとしている。政治のアクター達は、地方分権化や法の規制等を潜り抜け絶えず様相を変え活動しつつある。約300を有する多民族国家インドネシアでは、政治社会構造も多様であり、パプア州などはトライバリズム（Tribalism）が存在しており、民主的分権化を通じたダイナスティの根絶はまだ困難であることを説明している。

堅固な権威主義体制から安定した民主主義体制への大転換を十数年間で成し遂げたインドネシアにおいて、地方自治体並びに地方政治は着実に地方分権化への道に進んでいる。その中において、幅広い意味における市民参加、自由なメディア活動の確保、公務員の質的向上、そして政治政党の改善は、民主的地方分権化にとって不可欠であるという仮説を調査により再確認している。本論文における価値は、インドネシアの民主化の困難性と、分権化がもたらした新たな政治社会構造を、数年間に及ぶ膨大な数の聞き取り調査と、各種文献資料を駆使し、理論的に検証したことにある。その独創性と成果は評価されるべきであり、学術的な貢献も大きい。以上の諸点を勘案し、本論文は、博士（現代アジア研究）（同志社大学）の学位を授与するにあたり、十分な価値を有するものと認められる。

## 総合試験結果の要旨

2015年6月30日

論文題目： Observation of Democratic Decentralization in Indonesia during 2009-2014: Political Dynasty in Banten Province and Populism in Jakarta Province

2009年から2014年におけるインドネシアの民主的地方分権に関する考察—バンテン州における政治ダイナスティとジャカルタ特別州におけるポピュリズムの台頭—

学位申請者： Abdul HAMID

審査委員：

主査： グローバル・スタディーズ研究科 教授 小山田 英治

副査： グローバル・スタディーズ研究科 教授 Anne GONON

副査： グローバル・スタディーズ研究科 准教授 今井 ナタニエルアゴラ

要 旨：

学位申請者 Abdul Hamid に対する総合試験を2015年6月30日午後1時10分から同2時40分まで、同志社大学志高館にて実施した。前半の40分は申請者のプレゼンテーション、後半50分を質疑応答にあてた。学位申請者は、論文の構成、方法、内容に関する質問に対して的確に答え、論文の主張の根拠と意義を説得力ある仕方で述べた。関連するインドネシアにおける民主化と民主的地方分権の問題点と今後の課題についての質疑応答においても、論文で展開された議論を十分に裏付ける専門知識を有することを示した。本論文は英語で書かれているため、質疑応答はすべて英語で行われ、十分な語学力をもつことも確認した。

よって、審査委員一同は、総合試験の結果は合格であると認める。

# 博士學位論文要旨

論文題目： Observation of Democratic Decentralization in Indonesia during 2009–2014:  
Political Dynasty in Banten Province and Populism in Jakarta Province  
(2009 年から 2014 年におけるインドネシアの民主的地方分権に関する  
考察：バンテン州における政治ダイナスティとジャカルタ特別州におけ  
るポピュリズムの台頭)

氏 名： Abdul Hamid

要 旨：

After the fall of Suharto's 32-year regime in 1998, Indonesia's political system has transformed from an authoritarian centralistic regime to a democratic decentralized government. A key pillar in the decentralization process in Indonesia was the enactment of Law Number 22 in 1999 that stimulated a “big bang” (quick and comprehensive) implementation of the decentralization process. It promoted the transfer of political, financial and administrative powers and responsibilities to subnational government units. For the first time, local electorates were directly involved in the election of their local officials without intervention from central government.

After almost 15 years of decentralization, the results are mixed and several studies have explored and highlighted the negative aspects of the decentralization process. These studies have focused on decentralization deficits, notably conflict regarding the election of regional leaders, tensions between the executive and legislature at a local level, the significant growth of new autonomous regions, and the emergence of undesirable and undemocratic local political leadership during the decentralization era, including the rise of local bossism, the emergence of dynastic power, and the surfacing of vigilante groups.

However, the mixed results of the decentralization process have also produced innovative and populist leaders, especially after the implementation of the direct election for the local leader since 2005 by law 32 2004. During the past five years, decentralization has become a breeding ground not only for

dynastic leaderships in some areas but also populist leaders in others. This study was inspired by this phenomenon, where leaders with the ability to lead local authorities in the democratization and decentralization process have become known, accepted, supported and even promoted or elected to national leadership. In contrast, local political leaders entangled in corruption and as the creators of dynastic political regimes are slowly indicted for their offenses and misconduct.

Based on this rationale, this dissertation made a scholarly inquiry of the following questions: (1) Were the necessary requirements for democratic decentralization present in Indonesia during the 2009–2014 decentralization era? In this case, the provinces of Banten and Jakarta were selected. (2) How did the presence of those requirements shape political dynamics at a local level in Banten and Jakarta? (3) What was the impact of each political dynamic (dynasty and populism) on local governance?

The research method used in this study is purely qualitative inquiries, via literature reviews, field observations and intensive interviews. The provinces of Banten and Jakarta were selected for the case studies because of the perceived contrasts in local political dynamics.

In the case of Banten, the emergence and formation of its political dynasty was traced from the late patriarch Chasan Sohib, and started after the implementation of the new law on local government in 2004 (Law Number 32/2004). During the early years, Sohib relied on violence to achieve and maintain his political power. When his political machinery was in place, he consolidated his political power using his family. He took advantage of the political changes to extend his dominance by exerting influence on family members and utilizing his kinship network to penetrate and, eventually, control the political arena.

From 2009 until 2014, Sohib family members occupied the position of provincial governor and four (of eight) local government units in Banten. This study found that the proliferation of the political dynasty in Banten occurred because the following factors were lacking: (1) party competitiveness; (2) professional civil services; (3) free

local media; and (4) a culture of accountability with strong law enforcement and civil society participation. These four factors are essential for democratic decentralization, and were clearly absent in Banten.

In the context of democratization efforts in Indonesian politics, the Banten case shows how a political family became the single most important actor to determine the distribution of political power and economic resources at the local level. The family became a predator that used state resources for their interests.. Their political domination and curtailment of expression and transparency was further reinforced with their control of the local newspaper.

In 2014 on charges of corruption, the national corruption eradication commission (*Komisi Pemberantasan Korupsi*; KPK) arrested the Governor of Banten and his brother. Despite these indictments, members of the Sochib political dynasty were still elected as members of both national and local parliaments in the 2014 election.

The situation in Jakarta also provides an interesting case study. The local political situation in Jakarta in the last five years is quite different from other areas in Indonesia, especially to that in Banten. Jakarta is characterized as being a very urbanized city, heterogeneous and with a high educational level. Furthermore, the number of poor (relative to Banten) is low, social ties are considered weak, and there is a higher level of autonomous and pluralistic political participation than elsewhere in Indonesia. Importantly, media literacy and independence is also high. These factors provided opportunities for the rise of a populist leader through free and fair gubernatorial direct election, a positive outcome in the democratization and decentralization process. Joko Widodo (Jokowi), an outsider to Jakarta's politics, was elected governor in 2012. Jakarta's citizens were becoming increasingly frustrated with their government, and they saw in Jokowi the potential to provide an alternative (innovative and transformative) political leadership. Thus, this situation can be seen as a populism phenomenon.

Jokowi's populist leadership had a positive impact on governance practices in Jakarta. When first in office, he practiced transparency and responsiveness in governance. He also introduced policies to protect the lower-middle classes, such as increasing the regional minimum wage.

Thus, the requirements for democratic decentralization appear to exist to a greater degree in Jakarta than in other areas in Indonesia. That is, the region displayed solid (1) party competitiveness, (2) efforts to enhance professional civil servants, (3) a free and strong media, and (4) a culture of accountability with effective law enforcement and active civil society participation.

Based on these two cases, it can be concluded that Indonesian local politics is heading towards democratic decentralization. Furthermore, recent laws have been introduced to stamp out corruption within political dynasties. A new law on local head election was implemented regarding the direct election of regional leaders, and it included a section restricting political dynasties.

As mentioned above, and mainly in urban areas, the conditions are now right for the emergence of populist leaders. They have proven themselves and have received much public and media support. The influence of the rise of the populist leader is not restricted to local politics but also extends to national politics. When Jokowi was elected president in 2014, this was also seen as a response to the development trajectory of Indonesia. Local leaders now have the opportunity to be elected to the highest seat in national leadership.

The era of local political dynasties is over and there is now hope that populist leaders can transform their leadership to fill the promises of decentralization. In addition, besides the improvements of the system (e.g., law enforcement by local law enforcement agencies and the anti-dynasty article in the local election law), it is also need changes in society, especially improve the education. Such efforts must also be followed by the guarantee of a free media, active participation by citizen, enhance the quality of public services and improvements of political parties.